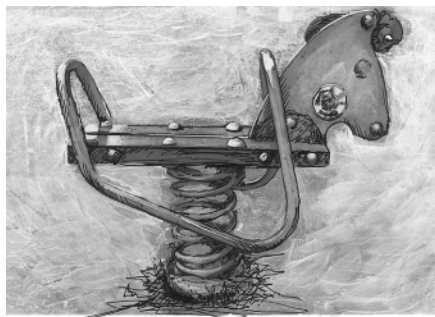


主張

新学習指導要領全面实施における 学習評価と全日中新教育ビジョン

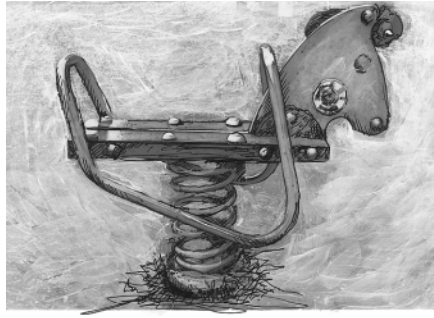
金丸利康



現代は Society4.0 情報化社会から今後、新たな Society5.0 の社会へとシフトしていく時代と言われています。また、「予測困難な時代」であり、さらに新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中、社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのか、校長として学校経営をどう進めて行くのかが問われています。

本年度より中学校においては、新学習指導要領が全面实施となりました。この学習指導要領の方向性は、新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実です。その新しい時代に必要となる資質・能力としては、①生きて働く知識・技能の習得②未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」に整理されました。そして、それらは、各教科等の目標や内容に反映され、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」といった観点別評価項目へと関連付けられています。

その学習評価について、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」の中で、①児童生徒に学習改善につながるものにしていくこと、②教師の指導改善につながるものにしていくこと、③これまで慣例として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認めら



れないものは見直していくこと、が示され、学校現場においては、そのことを念頭におきながら学習評価を実践しているところだと思えます。

本校においても、昨年度より校内研修会等で学習評価の観点が各教科全て三観点になることを共通確認し、今年度は観点別評価から総括した評定へ関連付ける評価計画を各教科等で検討し、それに基づいて実施しているところです。その中で、特に、「主体的に学習に取り組む態度」に対する見取りをどうすれば良いのか、評価の材料や視点をどう設定するのか、など悩みながら評価している状況です。日々の評価活動を試行錯誤しながら、規準等に照らし合わせ、データを積み重ね、信頼性、妥当性を高めるために見直していくことがこれからも求められます。そして、それらを実践していくことは最終的に、教員の授業改善へもつながるものでなければならぬと考えています。

さて、令和二年五月に策定された「全日中新教育ビジョン 学校からの教育改革」に示された10の提言の一つ「確かな学力」の内容には、「主体的・対話的で深い学びの実現を通して、生きて働く『知識・技能』、未知の状況にも対応できる『思考力、判断力、表現力等』、学びを人生や社会に生かそうする『学びに向かう力・人間性等』を育成する」とあります。この全日中新教育ビジョンを推進することは、学習評価をすすめる、教員の授業改善を図る教育活動を展開することにつながると思います。これからも、「全日中新教育ビジョン」で示された10の提言に対してしっかり取り組み、「未来を創る力」を学校教育を通して、そして、家庭・地域と学校で連携して「力を育てる場」として、学校経営の充実を図ってきたいと考えています。これからの時代をたくましくいきる子供たちを育てるために。

（全日中副会長・沖縄県南風原町立南星中学校長）